

放送大学における心理学実験実習科目の現状と課題¹

森津太子¹⁾、高橋秀明²⁾、進藤聡彦³⁾、向田久美子⁴⁾

The current state and challenges of psychology experiment practice courses at the Open University of Japan

Tsutako Mori, Hideaki Takahashi, Toshihiko Shindo, Kumiko Mukaida

要 旨

本稿では、放送大学における心理学実験実習科目の現状とその課題を報告する。放送大学は通信制大学として主に放送授業を行うが、「心理学実験」は実習科目であり、かつては対面授業が必須とされてきた。コロナ禍以前は「心理学実験1」「心理学実験2」「心理学実験3」の3科目が全国の学習センターで対面開講され、20～30名の少人数クラスで実施されていた。しかし、2020年の新型コロナウイルスの感染拡大により対面授業が困難になり、急遽オンライン完結型の実習科目が開設された。2022年度以降は、ライブWeb授業として「心理学実験（基礎）」が常設され、対面授業と同様の内容がオンラインで提供されるようになった。

心理学実験実習は、心理学における基礎的な研究手法を学ぶ、資格取得を目指す学生にとって不可欠な科目である。授業では、学生が実験者や実験参加者として実験を行い、そのデータを分析し、レポートとしてまとめる。また、オンライン実験サイトの導入により、オンラインでも様々な実験課題が実施可能となった。2024年度からは面接授業にBYOD方式が導入されたため、学生が自身のPCを使って実験に参加できる環境を整備している。

授業の質を確保するために、標準化されたシラバスや評価基準の統一が図られ、心理学の資格認定基準を満たす学習内容が提供されている。またオンラインの授業では、LMS (Moodle) の掲示板機能やZoomのブレイクアウトルームを活用し、学生同士の交流や相互評価の機会を設けることで、オンライン環境であっても密度の高い学習を実現している。一方で、オンラインでの授業にハードルを感じる学生もあり、ICTに不慣れな学生には対面授業での単位取得も可能とするカリキュラムを整えている。

放送大学の学生の多様なニーズに応えつつも確実に必要な知識とスキルを習得し、資格取得に必要な基準を満たせるよう、心理学実験実習科目は今後も充実が図られることが期待される。

ABSTRACT

This paper examines the current state and challenges of psychology experiment courses at the Open University of Japan. While the university primarily employs broadcast-based instruction, psychology experiment courses have traditionally required face-to-face sessions. Before the COVID-19 pandemic, three experiment courses were conducted in small, in-person classes across the country. However, in response to pandemic restrictions, the university introduced fully online versions of these courses. Since 2022, one of these courses has been permanently available, offering content equivalent to that of in-person classes.

These courses are essential for students aiming to develop core research skills in psychology and fulfill certification requirements. Students engage in experiments, analyze data, and write reports. An online experiment platform now enables various tasks to be completed remotely, and since 2024, a BYOD (Bring Your Own Device) system has allowed students to use their personal devices in class. To maintain academic quality, standardized syllabi and evaluation criteria have been established. Additionally, interactive tools on the LMS (Moodle) and Zoom facilitate student collaboration and peer review, fostering a high-quality learning experience even in a virtual environment. Recognizing that some students may feel uncomfortable with online learning, the curriculum also offers the option to earn credits through in-person classes, ensuring flexible access to the necessary skills and knowledge.

The psychology experiment courses at the Open University of Japan are designed to equip students with the essential knowledge and skills to meet certification standards while accommodating diverse learning needs.

¹ 本研究の実施にあたっては、放送大学教育振興会による助成を受けた。

²⁾ 放送大学教授（「心理と教育」コース）

³⁾ 放送大学教授（「心理と教育」コース）

⁴⁾ 放送大学教授（「心理と教育」コース）

1. 放送大学における心理学実験実習科目の位置づけ

本稿は、放送大学における心理学実験実習科目の現状についてを報告するものである。特に、授業内で使用するオンライン実験サイトに焦点をあて、どのような学習環境を用意しているかを説明する。

放送大学は通信制の大学として、主にテレビやラジオなどを使って授業を行っており、心理学の科目も、そのほとんどが放送授業科目として提供されている。しかしながら、「心理学実験」は実習科目であり、体験的な学習が必要なため、コロナ禍以前は、すべて面接授業科目（スクーリング）として開講されてきた。代表的な科目には、「心理学実験1」「心理学実験2」「心理学実験3」の3科目があり、1単位8回分の対面授業が、全国50箇所の学習センターすべてで、1年に1クラス以上が開設されている。1クラスの定員は、20～30名程度である。

これだけ多くのクラスが開設されているのは、放送大学で心理学を学ぼうとする人が多く、またその多くが心理学の資格取得を目指しているためである。資格取得という目標は、本学の学生が心理学の学習を継続する上で高い動機づけとなっており、放送大学としてもそれをサポートする環境を整えている。

学生が目指す主な資格は「認定心理士」である。「認定心理士」とは、公益社団法人日本心理学会が「大学で心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術を修得している」ことを認定する資格である。資格の取得には、心理学関連の科目を認定単位に換算して36単位以上を修得することが求められる。心理学実験実習に相当する科目（基礎科目c領域の科目）は、そのうち4単位分以上が必要であり、審査の段階においては、特に厳格に授業内容の確認が行われる。これは、「実験法」が、心理学（特に基礎心理学）という学問を特徴づける重要な研究法と見なされているからである。そのため、心理学の専門コースを持つ大学のカリキュラムには、心理学の基礎的な実験を経験する実習科目（実験実習科目）が必ず組み込まれており、それゆえに、心理学の基礎資格である「認定心理士」においても特に重要視されている。なお、心理学実験実習に相当する科目（基礎科目c領域の科目）には、「検査法」に関する科目を含めてもよいことになっており、放送大学では、「心理検査法基礎実習」（1単位8回分）という対応科目を開設している。しかし本稿では、科目名に「心理学実験」を含む科目に限定して現状を報告する。

「心理学実験」は、「公認心理師」の資格取得のために履修が必要な大学における25科目の一つでもある。放送大学において「公認心理師」の資格取得を目指す学生は「認定心理士」と比べると少ないが、カリキュラムは「公認心理師」にも対応しており、「心理学実験」を2単位以上履修することが求められている。

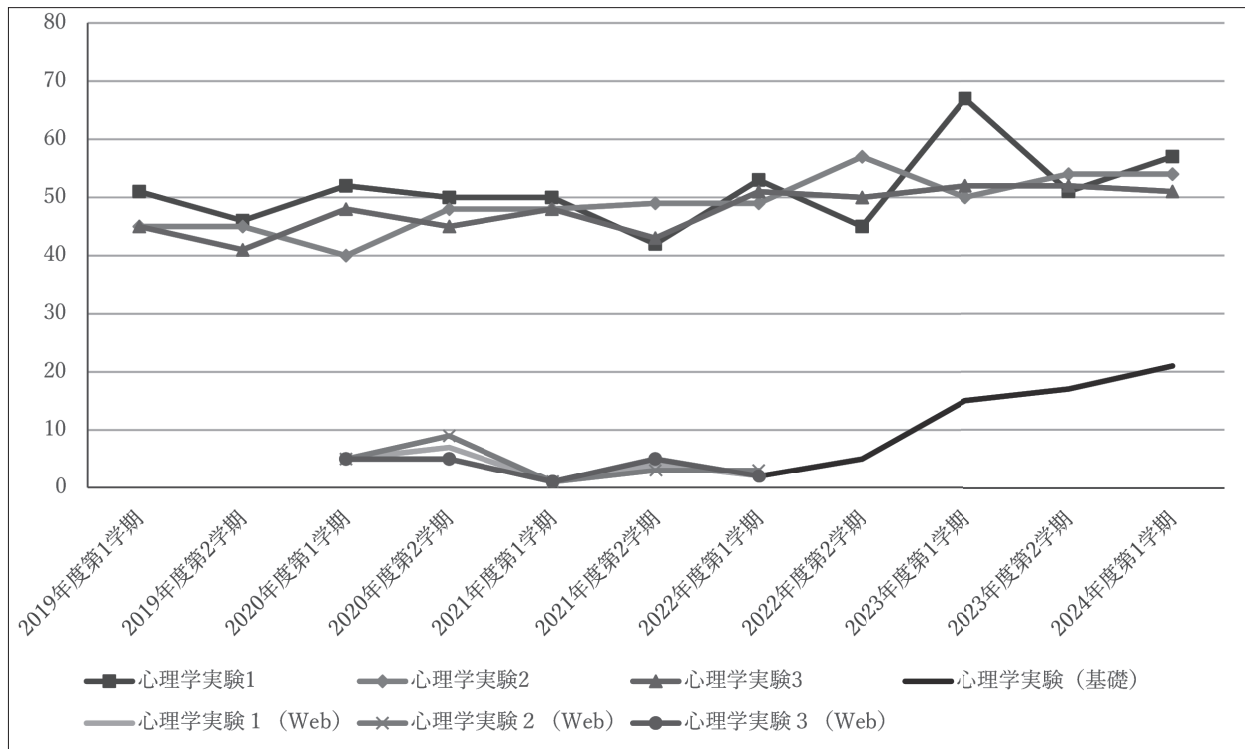
このように、「心理学実験」は心理学を学び、心理

学の資格を取得しようとする学生にとって不可欠の科目である。そのため、2020年に新型コロナウイルスの感染拡大によって、それまで対面で実施していた面接授業科目がすべて閉講になると、オンラインで完結する心理学実験実習の科目が必要となった。そこで、2020年7月からの約2年間、「心理学実験1（Web）」「心理学実験2（Web）」「心理学実験3（Web）」の3つの科目を開設した（いずれも1単位科目）。これらの科目の詳細や開設の経緯については、森他（2022）を参照されたい。

2022年度第1学期以降、これらの科目を発展的に解消したライブWeb授業科目「心理学実験（基礎）」を開講している。ライブWeb授業とは、コロナ禍以降に始まった放送大学における新しい授業形態の科目である。後述するように、授業内容は面接授業科目と共通しているが、面接授業が学習センター内の教室で提供されるのに対し、ライブWeb授業はLMS（Learning Management System）とWeb会議システムを通じて提供される。そのため、学生は自宅に居ながら授業を受講することができる。「心理学実験（基礎）」は、Web会議システム（Zoom）を用いた同時双方向授業8回とオンデマンド授業7回の計15回からなる2単位のライブWeb授業である（定員は30名）。「心理学実験（基礎）」以外のライブWeb授業は、すべて同時双方向授業8回からなる1単位の授業であるため（2024年度現在）、ライブWeb授業科目のなかでは異色の科目だが、対面で受講する面接授業科目とは異なり、すべてオンラインで完結するという点では共通している。2022年度第1学期に2クラスを試験的に開設して以降、常設科目とし、開設クラスを徐々に増やしている。したがって、2024年度現在、放送大学で開設している主な心理学実験実習科目は、面接授業の「心理学実験1」「心理学実験2」「心理学実験3」と、ライブWeb授業の「心理学実験（基礎）」の4種類である。

Figure 1には、2019年度第1学期から2024年度までの各科目の開設数の推移を示している。ただし、コロナ禍（2020年度第1学期～2021年度第2学期）における「心理学実験1」「心理学実験2」「心理学実験3」の開設数は、学期当初の開設予定数であり、2020年度第1学期はすべての科目が閉講となっている。また、以降も感染状況に応じて閉講したり、定員を縮小したりするなどの対応がとられたため、コロナ禍の開設数は実際の開設クラス数とは異なる。なお放送大学では、学生はどの科目をどの順序で履修してもよいため、それぞれの科目・クラスが開設される場所（面接授業の場合）や開設スケジュールに応じて履修する。ただし、異なる場所やスケジュールで開設されていても、同じ科目名ものを繰り返し履修することはできない。

Figure 1 心理学実験実習科目の開設数の推移



2. 授業内容と実験課題

面接授業「心理学実験1～3」(8回、1単位)の標準的な授業内容をTable 1に、ライブWeb授業「心理学実験(基礎)」(15回、2単位)の授業内容をTable 2に示した。心理学の研究法、特に実験法に関する講義を受けた後、心理学の実験に自らが実験者もしくは実験参加者として関与する。そして、実験デー

タを分析し、考察を加え、レポートを作成、提出するという流れになっている。レポートは、目的、方法、結果、考察を含む、心理学の実験論文の標準的な様式に従って作成する必要がある、後述する実験課題ごとに一つのレポートを作成する。

「認定心理士」の資格を取得するためには、心理学実験実習科目を認定単位に換算して4単位分以上履修する必要がある、全体として、「実験的方法で知覚や認知、社会など基本的な内容の課題を4つ以上含む計

Table 1 「心理学実験1～3」の標準的な授業内容

授業回	授業内容
第1回	心理学実験とは
第2回	実験1「ミュラー・リヤー錯視」の実施と解説
第3回	統計的分析、レポートの書き方
第4回	実験2「概念学習」の実施
第5回	実験2「概念学習」の解説
第6回	実験3「アイコニックメモリ」の実施
第7回	実験3「アイコニックメモリ」の解説
第8回	実験の計画立案、レポート執筆指導

Table 2 「心理学実験（基礎）」の授業内容

授業回	授業内容	授業形態
第1回	心理学の研究法	オンデマンド
第2回	実験法の特徴	オンデマンド
第3回	日常記憶①：実施と解説、結果の集計	同時双方向
第4回	日常記憶②：ディスカッション、レポートの書き方	同時双方向
第5回	日常記憶③：レポート作成・提出	オンデマンド
第6回	日常記憶④：レポートの相互評価	同時双方向
第7回	統計的分析	同時双方向
第8回	日常記憶⑤：レポート再提出、連想プライミング①：実施と解説	オンデマンド
第9回	連想プライミング②：結果の集計・ディスカッション	同時双方向
第10回	実験計画・立案：ディスカッションとプレゼンテーション	同時双方向
第11回	連想プライミング③：レポート作成・提出、空書①：実施と解説	オンデマンド
第12回	空書②：結果の集計・ディスカッション	同時双方向
第13回	プロトコル分析①：実施と解説、結果の集計	同時双方向
第14回	連想プライミング④：レポートの相互評価、プロトコル分析②：ディスカッション	オンデマンド
第15回	空書③・プロトコル分析③：レポートの作成・提出	オンデマンド

6 課題以上を体験的に学習すること」が求められている。体験する実習課題の総数が不足している場合、単位数が認定基準を満たしていても、資格審査で不合格になる可能性がある。そのため、面接授業「心理学実験1～3」では1科目につき2～3種類の実験課題を、ライブWeb授業「心理学実験（基礎）」では4種類の実験課題を実施する。これにより、心理学実験実習科目を4単位分履修すれば、上記の基準を満たすように設計されている。Table 3には、それぞれの科目で取り上げる実験課題の一覧を示した。これらの多くが「実験的方法で知覚や認知、社会など基本的な内容の課題」に該当する。

ライブWeb授業「心理学実験（基礎）」は、すべてのクラスで同じ4つの実験課題を実施する。一方、面接授業「心理学実験1～3」では、それぞれの科目について10～11種類の実験課題の候補を設定し、各クラスの担当講師がこの中から2～3種類を選択する。このように科目ごとに実験課題の候補を分けているのは、放送大学では、心理学実験実習科目を自由な組み合わせで履修できるためである。各科目の担当講師が、授業内で実施する実験課題を選択する自由を確保しつつも、学生が異なる科目名の心理学実験実習科目を履修する際、同じ実験課題を重複して体験することがないよう工夫している。参考までに、2024年度第1学期に各科目で採用された実験課題の中で最も多く実施さ

れたものは、「心理学実験1」ではミュラー・リヤー錯視、「心理学実験2」では記憶の系列位置効果、「心理学実験3」はストループ効果であった（Table 3）。

なお、「公認心理師」になるために必要な科目では、それぞれの科目に含むべき事項が定められている。「心理学実験」の場合、「実験の計画立案」と「統計に関する基礎的な知識」が必須項目として挙げられているため、心理学実験実習科目では、これらに対応する授業内容も含めるようにしている。

3. オンライン実験サイト

前述のように、心理学実験実習科目では、授業内でいくつかの実験課題を実施し、受講生は自ら実験者もしくは実験参加者として関与する。これらの実験課題の中には、実験刺激（文字や図形など）を正確な位置に、正確な時間の長さで提示したり、実験参加者の反応を正確に測定したりする必要があるものが多数含まれる。そのため、対面で行われる面接授業「心理学実験1～3」においても、PCを使用して実験課題を実施することが多い。放送大学では、このような実験課題を容易に実施できるよう、20種類以上の実験プログラムを開発し、USBメモリを介して提供してきた。これは、コロナ禍以前には、すべての心理学実験実習科目が、学習センター内の教室で開講されていたためであ

Table 3 各科目でとりあげる実験課題

科目名	実験課題	2024年度 第1学期 採用数	オンライン化 の時期
心理学実験1	1 目撃者証言	12	
	2 ミュラー・リヤー錯視	57	2020年7月
	3 心理尺度（一対比較法、順位法、評定尺度法）	21	
	4 アイコニックメモリ	9	2024年4月
	5 対人魅力（態度の類似性と相補性）	14	2025年4月
	6 概念学習	20	2020年7月
	7 情報伝達（バートレットの系列的再生）	16	
	8 集中学習・分散学習	6	
	9 ワーキングメモリ	4	
	10 仮現運動	0	
	11 社会的促進	1	
心理学実験2	1 印象形成（中心特性の働き）	26	
	2 記憶範囲	12	2020年7月
	3 自由再生による記憶の系列位置効果	43	2025年4月
	4 大きさの錯視	4	
	5 メンタルローテーション	13	2020年7月
	6 運動技能学習におけるフィードバックの効果	9	
	7 集団の認知（錯誤相関）	12	
	8 要求水準	27	2024年4月
	9 パーソナルスペース	11	
	10 アフォーダンス	1	
	11 顔面フィードバック	1	
心理学実験3	1 囚人のジレンマ	20	
	2 SD法	14	2025年4月
	3 触2点閾の測定	14	
	4 ストループ効果	31	2020年7月
	5 短期記憶検索	8	
	6 鏡映描写	23	2024年4月
	7 逆向抑制	5	
	8 社会的判断（ヒューリスティック判断）	26	
	9 視覚探索	7	2020年7月
	10 奥行き知覚	1	
心理学実験（基礎）	1 日常記憶	21	2022年4月
	2 連想プライミング		
	3 空書		
	4 思考過程のプロトコル分析		

Figure 2 オンラインで実施可能な実験課題を提供するウェブサイト

① トップページ（科目選択画面）

② パスワード入力画面

③ 実験課題選択画面（心理学実験 1 の場合）

④ 参加者情報入力画面

⑤ 実験画面（ミュラー・リヤー錯視の場合）

⑥ 実験終了画面

る。受講生は、学習センターに配備されたPCにUSBメモリを挿入し、実験プログラムを実行していた。

しかしコロナ禍に対面授業の実施が困難となり、オンラインで完結する心理学実験実習科目を開設することになると、実験課題もオンラインで実施できるよう改変する必要が生じた。そこで、まず「心理学実験1 (Web)」「心理学実験2 (Web)」「心理学実験3 (Web)」で利用できるように、各科目2課題ずつ、合計6課題の実験課題を2020年7月までにオンライン化した。その後、ライブWeb授業「心理学実験 (基礎)」の開設に合わせ、2022年4月までにさらに3つの実験課題を

オンライン化した。

各学習センターで面接授業が再開されると、面接授業「心理学実験1～3」では、従来どおりUSBメモリを使用した実験課題の実施が再開された。しかし、2024年度第1学期からは、大学の方針で学習センターに配備されていたPCが撤去され、BYOD (Bring Your Own Device) 方式の面接授業が導入された。BYOD方式では、PC等のデバイスを利用する授業において、学生が自身のPC等を持参することが求められる。しかし個人が持参するPCは、学習センターに配備されていたPCとは異なり、OS、スペック、イン

ストールされているソフトウェアが多様である。従来USBメモリで提供してきた実験プログラムはWindows PCでの利用を前提としており、多くがMicrosoft Accessで動作するプログラムであった。学生がこれらの条件に合ったPCを持参できるとは限らない。また、USBメモリを複数のPCに接続することでウイルス感染のリスクが高まることも考慮し、2024年度第1学期からUSBメモリでの実験プログラムの提供を停止した。代わりに、オンラインで実施可能な実験課題を拡充し、2024年度第1学期までに、「心理学実験1」「心理学実験2」「心理学実験3」で利用可能な実験課題をそれぞれ3課題、合計9課題とした。したがって、本稿執筆時点（2024年10月現在）で、オンラインで実施可能な実験課題は、ライブweb授業「心理学実験（基礎）」の3課題と合わせて、12課題となっている（Table 3）。これらの実験課題は、ChromeやSafariなどのブラウザ上で動作するため、インターネット環境さえあれば、特別なソフトウェアをインストールせずに実施できる。なお、「心理学実験1」「心理学実験2」「心理学実験3」で利用可能な実験課題のオンライン化は、今後も継続し、2025年度第1学期までに各科目に1つずつ追加することが決定している。

オンライン実験課題は、専用のサイトを通じて提供される（Figure 2）。授業内で利用する際、学生はトップページ（①）から受講科目を選択すると、パスワード入力画面（②）が表示される。ここで、担当講師から教えられたパスワードを入力すると、実施可能な実験課題が表示され（③）、担当講師の指示に従って、実験課題を選択する。最初に、年齢や性別などの属性情報を入力し（④）、必要に応じて練習試行を行った後、実験を実施する（⑤）。実験が終了すると、最後に感想を入力し、「実験を保存する」ボタンを押すと（⑥）、実験のデータがcsv形式でダウンロードされる。授業では、このデータをクラス全体で分析し、結果をまとめたレポートを作成する。当初、実験課題ごとに表示画面の仕様が異なっていたが、2024年度第1学期からは実験中の画面を除き、統一された。

また、2024年度第2学期からは、実験に参加した学生のデータをサーバーに保存する機能を追加した（ただし、学生がそのデータを放送大学の教育・研究に利

用することに同意した場合に限る）。心理学実験実習科目の担当講師には、サーバーからデータをダウンロードする権限が付与されており（Figure 3）、授業内で統計的な分析を行う際に、データが不足する場合（例えば、受講生が少ないクラスなど）には、サーバーからデータをダウンロードして補うことが可能である。

4. 質の保証

前述のように、心理学実験実習は大学の心理学教育において重要な科目であり、「認定心理士」や「公認心理師」の資格取得にも履修が求められる。そのため、本科目の履修を通じて習得すべき知識やスキルに関する授業内容は、高いレベルで体系的に盛り込まれている必要がある。

現在、放送大学の心理学実験実習科目はすべて非常勤講師が担当している。たとえば、2024年度第1学期においては、面接授業「心理学実験1」「心理学実験2」「心理学実験3」の3科目でのべ111名の講師が、ライブWeb授業「心理学実験（基礎）」ではのべ21名の講師が関わっている。このように多くの講師が担当することで、授業内容や成績評価にばらつきが生じる可能性があるため、授業の質を担保することを目的として、次のような工夫を行っている。

(1) 授業内容の標準化

ライブWeb「心理学実験（基礎）」は、2022年度第1学期から開設された新しい科目のため、毎学期シラバスを見直している。ただし講師による差異をなくするため、すべてのクラスで共通のシラバスを使用している。また、LMS（Moodle）上に共通のオンデマンド教材を設置し、同時双方向授業で使用する教材のテンプレート（パワーポイントの資料）も提供している。

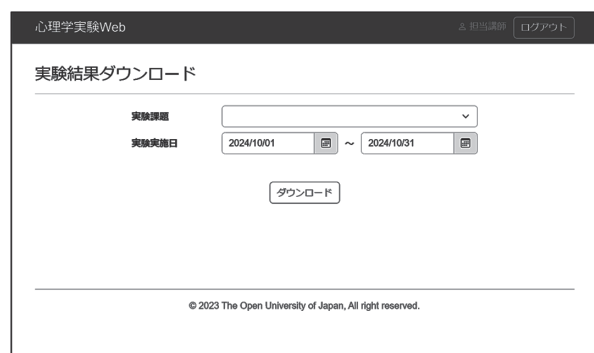
一方、面接授業「心理学実験1～3」では、シラバスは各クラスの担当講師が作成するが、作成例を提示し、いくつかの事項は、必ず記載するように求めている（たとえば、本科目の履修に必要な知識など）。授業で利用できる教材のテンプレート（パワーポイントの資料）も自由に改変できる形で用意しているが、使用するかどうかは各講師の判断に委ねられている。

すべての科目のシラバスは、事前に繰り返し、精査している。学内委員会での審査に加え、心理学を専門とする専任教員および資格取得の支援を担当する事務職員が内容を確認し、必要に応じて修正を求めている。さらに、確定したシラバスは日本心理学会認定心理士資格認定委員会の審査を受け、心理学実験実習に相当する科目（基礎科目c領域の基本主題科目）としての認定されたうえで、学生に公開している。

(2) 成績評価の標準化と厳格化

成績評価は、授業内で実施する実習課題への主体的な取り組みとレポートの評点に基づいて行われる。特に「認定心理士」の認定基準では、すべての実習課題

Figure 3 実験結果ダウンロード画面（担当講師用）



にレポートを作成することが求められているため、1課題分でもレポートを提出しなかった場合は、原則として不合格としている。

また、一般の面接授業科目やライブWeb授業科目では2回までの欠席が許容されるが、心理学実験実習科目では、実験課題への参加など授業内で体験すべき内容を体験できないと、資格認定基準を満たせない可能性がある。したがって、原則として欠席は1回も認めないなど、厳格な成績評価基準を設けている。

(3) 授業運営に関わる情報の提供、共有、交換

授業内容や成績評価の標準化を図るため、心理学実験実習の担当講師や科目開設に携わる学習センターに対し、さまざまな情報を提供している。具体的には、科目の位置づけ、授業内容、シラバスの作成方法などを記した説明文書を配布しているほか、ライブWeb授業「心理学実験（基礎）」では、LMS（Moodle）の操作方法を含む詳細な授業マニュアルも作成している。これらの情報は学期ごとに更新され、担当講師（非常勤講師）や学習センターからの質問には、放送大学の専任教員や本部の職員が迅速に対応できる体制を整えている。

この情報提供は、授業の質を一定以上に保つことを目的としており、授業の画一化を目指すものではない。1学期に心理学実験実習科目だけで150以上のクラスが開講され、全国各地でのべ130名以上の非常勤講師が指導にあたるというのは、他の大学には見られない放送大学ならではの特徴である。この特徴を活かすため、本科目に関する情報提供が放送大学から講師への一方的なものにならないよう、情報共有や意見交換の場も用意している。ただし、ライブWeb授業「心理学実験（基礎）」では早い段階から講師間の交流の場が設けられていたが、面接授業「心理学実験1～3」においては、BYOD方式の授業が始まった2024年度第1学期からようやく担当講師同士の交流の場を設けたばかりであり、まだ十分に活用されていないのが実情である。今後は、各講師の創意工夫による授業の工夫やTipsを共有し、蓄積することで、放送大学の心理学実験実習科目の質をさらに向上させていきたい。

5. まとめ

心理学実験実習は実習科目であるため、通信制大学である放送大学においても、かつてはすべて対面の面接授業として開設されていた。しかしコロナ禍に伴う緊急対応を経て、現在ではオンラインで完結するライブWeb授業「心理学実験（基礎）」も常設科目となっている。本稿執筆時点の2024年度第2学期には、16クラスが開講される予定である。

コロナ禍により、心理学実験実習のオンライン実施を余儀なくされたのは、放送大学のような通信制大学に限らず、通学制大学においても同様だった。しかし、感染状況が少し落ち着くと、多くの大学では他の科目

に先んじて対面授業を再開した（森他, 2022）。これは、オンラインで心理学の実験課題を実施することが技術的に難しいという理由に加え、「実習は対面で行われるべきだ」という固定観念が根強く残っていたためであると考えられる。

しかしながら、コロナ禍で開設された「心理学実験1～3（Web）」は、緊急対応の科目であったにもかかわらず、学生から高い評価が得られた。また、多様な学生が学ぶ放送大学においては、介護、育児、障がいなどの事情で対面授業への参加が難しい学生から、継続を求める声が多く寄せられた（森他, 2023）。筆者らも、当初は必要に迫られて開設したオンラインの心理学実験実習科目を運営するなかで、対面の授業にはない長所が数多くあることを実感した。その経験を生かし、ライブWeb授業「心理学実験（基礎）」では、Web会議システム（Zoom）のブレイクアウトルーム機能やLMS（Moodle）のフォーラム機能（掲示板）を活用し、物理的に遠く離れた受講生同士がコミュニケーションをとったり、一つの作業を共同して行ったりする機会を設けている。またLMS（Moodle）の機能を活用し、作成する実験レポート4本のうち2本については、受講生同士で相互評価をする機会を設けている。一定の基準で他の受講生のレポートを評価することで、自身のレポートを客観的に見直す機会となり、他者のレポートから学びを得ることも期待している。

さらに「心理学実験（基礎）」では、オンデマンド授業と同時双方向授業を明確に分けることで、効率的かつ密度の濃い授業を展開することが可能となった。一般的な面接授業では、遠方から参加する学生も多いため、土日2日間に集中して授業をすることが多い。そのような環境では、PCを使った実験課題に取り組む際、それぞれの学生が黙々と課題に取り組むことが多く、受講生同士のコミュニケーションが限定されがちである。これに対し、ライブWeb授業では、その時間をオンデマンド授業に割り当てることで、同時双方向授業の時間をより有効に活用できる。「心理学実験（基礎）」では、週1日、2コマ分の同時双方向授業を4週間にわたって実施し、その間にオンデマンド授業をはさむ。この構成により、同時双方向授業は直前のオンデマンド授業を前提とした内容となるため、オンデマンド授業を受講していなければ授業についていくことができない。結果として、学生の負担は決して小さくないが、その分、授業内容の密度が高まり、受講した学生からは、「大変だが、対面の実験実習以上に知識やスキルが身につく」との声も聞かれている。

しかし、すべてオンラインで完結するライブWeb授業は、ICT活用に苦手意識を持つ学生にとってはハードルが高い。対面授業であれば、PCを使用する場合でも、担当講師や周囲の受講生の助けを得やすいが、オンラインで完結する授業では、トラブル対応だけで時間をとられてしまう。心理学実験実習は、実験課題への参加や実験データ分析、レポート作成など、PCを使用する場面が多いが、本来の目的は心理学の

実験法に関する知識やスキルを身につけることであり、PC操作の習得ではない。そのため、ICT活用による不安のある学生でも、「認定心理士」資格を取得できるよう、必要な4単位は対面授業（面接授業）のみでも取得可能なカリキュラムとしている。たとえば、「心理学実験1」「心理学実験2」「心理学実験3」「心理検査法基礎実習」の4科目（いずれも1単位）を履修すれば、4単位を確保できる。

一方で、オンラインのみで完結するライブWeb授業の履修だけでは、「認定心理士」資格に必要な単位をすべて取得できるようにはしていない。現在、ライブWeb授業で提供している心理学実験実習科目は「心理学実験（基礎）」のみであり、この科目の履修だけでは2単位しか取得できない。そのため、「認定心理士」資格の取得を希望する学生は、残りの2単位以上を面接授業「心理学実験1」「心理学実験2」「心理学実験3」「心理検査法基礎実習」から取得する必要がある。このようなカリキュラム設計としているのは、心理学界全体において、オンラインの実験実習の評価が定まっていない（森他，2023）ことに加え、実際のところ、実験課題にせよ、それ以外の実習にせよ、対面だけでは経験できないことも多数あるためである。

対面の面接授業では、2024年度第1学期からBYOD方式が導入され、一部の実験課題をオンライン化した。2024年度第2学期には、「心理学実験1」が46クラス（うち24クラスがBYOD方式）、「心理学実験2」が53クラス（うち29クラスがBYOD方式）、「心理学実験3」が49クラス（うち19クラスがBYOD方式）であり、各科目とも開講クラスの約半数がBYOD方式を採用している。ただし、PCはデータ分析やレポート作成にも用

いられるため、BYOD方式のクラスが、すべてオンライン実験課題を利用しているとは限らない。PCが不要な実験課題も多数あり、対面授業ならではの実験課題（たとえば、パーソナル・スペースの実験）の実施も推奨されている。またPCで代用できるとはいえ、錯視図（ミュラー・リヤー錯視）、触覚計（触二点閾測定用）、鏡映描写器など、古くからある実験器具も放送大学は保有しており、学生が面接授業を通じて、これらの器具に触れることも貴重な経験となるだろう。

放送大学は多様な事情を持つ学生に開かれた大学である。一方で、心理学実験実習は心理学教育の要となる科目であり、心理学の基礎資格である「認定心理士」においては特に重視されている。それぞれの事情に応じた履修を認めつつも、放送大学で心理学の教育を受けた学生が、確実に必要な知識とスキルを身につけられるよう、今後も心理学実験実習科目の充実を図っていきたい。

引用文献

- 森津太子・進藤聡彦・高橋秀明・向田久美子・三浦麻子（2022）. コロナ禍の心理学教育に関する調査—心理学実験を中心に— 日本心理学会第86回大会論文集, 770
- 森津太子・高橋秀明・進藤聡彦・向田久美子（2023）. Webベースの面接授業「心理学実験」に関する実践的研究 放送大学研究年報 40, 137-145.